

21 耳鼻いんこう科研修プログラムの概要

1. プログラムの目的と特徴

耳鼻いんこう科研修の後期3年間を通して外来、病棟、手術、緊急対応、研究の全般的研修を行う。

当科は緊急症例や手術件数が極めて多い。そこでこの3年間では、外来、病棟の一般診療に加え、特に緊急症例の対処と手術における術者としての研修に重点を置く。耳鼻咽喉科疾患のほとんどの症例と手術に対応できる技術的に優れた耳鼻咽喉科専門医の養成を目標としている。

さらに聴力機能、平衡機能、顔面神経機能検査、幼児聴力検査、脳波聴力検査などの耳鼻咽喉科医に必要な検査についても十分研修可能である。

また臨床症例の検討、臨床データの分析を行い、学会発表、論文作成を通して知識の修得も研修の一つに含まれている。

前期研修に合わせ、この3年間の後期研修を終了後に耳鼻咽喉科専門医の受験資格を得ることができる。

尚、3年間を通しての研修に限らず、単年度の研修も可能である。

2. 研修内容と到達目標 — 3年間を通して—

外来：視診触診などの一般診療、緊急症例の対応、手術適応、悪性腫瘍の診断、日帰り手術
入院：術前、術後管理、偶発事故の対応、家族との対応、ターミナルケア、緩和医療、コメディカルとの協力

検査：聴力検査、平衡機能検査、顔面神経機能検査、幼児聴力検査、脳波聴力検査、画像検査、内視鏡検査、補聴器適合検査

手術：耳介・外耳道腫瘍摘出術、鼓膜チューブ留置術、鼓膜形成術

耳瘻孔摘出術、乳突削開術

内視鏡下鼻内手術、鼻・副鼻腔根本術、鼻中隔矯正術、鼻骨骨折整復術、上顎骨折整復術、鼻腔腫瘍摘出術

アデノイド切除術、口蓋扁桃摘出術、舌・口腔腫瘍摘出術、喉頭微細手術、気管切開術

顔面腫瘍摘出術、耳下腺腫瘍摘出術、顎下腺腫瘍摘出術、側頸嚢胞摘出術、甲状腺腫瘍摘出術

気管・食道異物摘出術

以下は指導医のもとに行う。

鼓室形成術、鼻・副鼻腔悪性腫瘍手術、喉頭全摘術、頸部郭清術

3年間の主な年次別研修目標

(総合的には前述の3年間研修を目標とする)

1年目 一般診療と救急処置、術前、術後管理

コメディカルとの協力

聴力検査一般、画像検査、内視鏡検査耳、鼻、咽喉頭、頸部手術の基本手技
検討会や学会での症例報告

2年目 手術適応と偶発事故の対応、家族との対応

平衡機能検査、幼児聴力検査、脳波聴力検査

鼓膜形成術、鼻根本手術、頸部腫瘍手術、緊急手術

3年目 悪性腫瘍の診断と治療方針

ターミナルケア、緩和医療

補聴器適合検査

鼓室形成術、悪性腫瘍手術

論文作成

研究：臨床症例検討会、学会発表、論文作成など。